

日本常民文化研究所における南米日系人研究への試み

泉水英計[※]

神奈川大学日本常民文化研究所（以下、常民研）は、その前身であるアチックミュージアム時代から民俗学的な調査研究を主要な活動としてきた。とりわけ、民具と漁業史資料の収集と整理は学界において高い評価を受け、財団法人から神奈川大学に移管された後も継続的な研究が積み重ねられている。これらの研究は日本を中心とし、隣接した東アジアを対象地域にするものであったが、近年、これを南米日系人社会へと延長する試みが始まっている。ここにその経緯を書きとめ、更なる展開につなげる一助としたい。

第1回ブラジル視察

始点となったのは、2010（平成22）年7月にあったサンパウロ大学からの派遣視察である。日本文化研究所を代表して哲学・文学・人間科学部教授の森幸一氏が神奈川大学を訪れ、両大学間で学術交流協定が締結された。その折りに常民研では第84回研究会を開催、森氏の研究発表「ブラジルにおける日本移民研究の回顧と展望」があった。常民研付設の非文字資料研究センターでは既にサンパウロ大との学術交流の実績があったが、常民研本体でも積極的に学術交流を推進するという方針が決まり、翌年度の学内「国際交流事業」に「サンパウロ大学日本文化研究所との技術協力および共同研究の基盤形成」事業を申請した（ただし、申請部局は構成員が常民研とほぼ重なる歴史民俗資料研究科）。

この事業では、2011（平成23）年9月1

※神奈川大学経営学部国際経営学科

日より11日間の日程でブラジル視察をおこなった。派遣されたのは、佐野賢治、津田良樹、泉水英計（以上常民研）、橘川俊忠（歴史民俗資料研究科）の4名であるが、国際交流基金の派遣講師として現地に滞在中であった安室知（常民研）も一部行程に加わった。以下に主な視察先と活動の要点を列挙する。

- （1）サンパウロ大学国際交流事務所および文学部長室、同大学パウリスタ博物館（聖市内）。表敬訪問と学術協定締結の相談。
- （2）日伯文化福祉協会、ブラジル日本移民資料館、サンパウロ人文科学研究所（聖市内）。日系移殖民資料収集状況と保管状態の確認。
- （3）マスピ美術館、ピナコッテカ美術館、イビラプエラ公園（聖市内）。日系人画家作品と日本庭園の見学。
- （4）アパレシーダ聖母国家聖域（アパレシーダ市）。民俗宗教実践の見学。
- （5）沖縄文化センター（ジアデーマ市）、沖縄県人会ピラ・カロン支部会館（聖市内）。沖縄移民社会の視察。
- （6）南米大神宮、日系人墓地（聖市内）。日本文化の移植状態の調査。
- （7）岩手県人会事務所（聖市内）。県人会活動の調査。
- （8）国際交流基金サンパウロ日本文化センター（聖市内）。日系移民関連文化財の現況について情報収集。

これらの視察にくわえ、9月6日にメシアニカ大学にて橘川が講演、同8日には日

伯文化福祉協会会議室にて常民研公開セミナー「ひと・もの・暮らし——常民のみた日本」を開催し視察隊4名と安室がそれぞれ演壇に立った。

この事業では更に2012（平成24）年2月に森氏をブラジルから共同調査のために招聘した。まず、21日に、神奈川県内の日系人集住地区として知られる愛甲郡愛川町の視察をおこなった。森、小熊誠、泉水の3名が、愛川町文化開館で定期開催されている日系人対象の日本語教室と、郷土資料館および日系人向け店舗とを見学した。22日には非文字資料研究センターとの共催で第88回常民研研究会を開催し、森氏による「ボリビア・コロンビア沖縄——歴史と現状（将来の共同研究に向けて）」という研究発表があった。翌23日は、森、佐野、泉水の3名で、横浜市内の日系人および沖縄人集住地区である鶴見区を視察した。

第2回ブラジル視察

第1回ブラジル視察をもとに具体的な調査案が策定され、2012（平成24）年度より改めて科学研究費助成事業「ブラジル日系移民および在日ブラジル人の民俗学的研究」（挑戦的萌芽研究、代表：佐野賢治）が開始された。

初年度には、2013（平成25）年1月4日から11日間の日程で、サンパウロ州レジストロ市の民具と家屋を中心に物質文化に主眼を置いた視察隊がブラジルに派遣された。参加者したのは森武麿、佐野、内田青蔵、泉水の4名の所員である。次のような視察先で調査活動をおこなった。（本視察については内田報告：『戦前期のブラジル移民の建築遺構』『比較民俗研究』28、2013も参照願いたい）。

- （1）レジストロ日伯文化協会。海外興業レジストロ植民地の歴史資料の収集および古老からの聞き書き。
- （2）レジストロ日本移民記念館。収蔵民具

の見学および収蔵品目録台帳の収集。

- （3）レジストロ植民地（以上レジストロ市）。移民家屋および茶工場建築（2010年に連邦歴史遺産登録）、日本人墓地、本願寺、カトリック教会、ベースボール協会の見学。残存民具の調査。
- （4）カザロン・ド・シャー（モジ・ダス・クルーズ市）。文化財修復作業の見学（1986年に連邦歴史遺産登録）。
- （5）ブラジル日本移民資料館（聖市）。収蔵民具の見学および収蔵品目録台帳の収集。
- （6）サンパウロ沖縄県人会および附属移民資料館。沖縄移民関連資料の収集。
- （7）ブラジル日本文化社会福祉協会国士館スポーツセンター倉庫（サンロッケ市）。大型収蔵民具の保管状況の確認。

第3回ブラジル視察

次年度は、2013（平成25）年10月27日から11月4日の日程で、小熊と泉水が、レジストロを中心とする旧イグアッペ郡日系人入植地の視察をおこなった。この期間中は、11月2日の「フィナードの日（死者の日）」を頂点とする先人供養の年中行事いわゆる「ブラジルお盆」であり、当年はイグアッペの日本人開拓百周年にあたるため、各種行事が盛大におこなわれた。ここでは訪問先を経路にしたがって記す。

- （1）サンパウロ市内。ブラジル日本移民資料館、サンパウロ人文科学研究所にて現地調査前の情報収集。
- （2）サンパウロ市内ビラ・カロン地区。沖縄系宗教団体 Amor a Jesus の礼拝見学およびインタビュー。
- （3）レジストロ市内。①コチア製茶工場跡、レジストロ植民地第4部を巡見し、第2回視察の補足調査。②「イグアッペ、レジストロ、セッテバラス日本開拓移民百周年」記念式典に参列。③日本人墓地にて無縁仏供養の見学。④ベース

ボールクラブにて駐伯大使による設備品寄贈式に参列。

- (4) イグアッペ市。ドイツ人植民地パリケラ・アスーでの墓参を見学した後、イグアッペ港、イグアッペ市立歴史博物館、桂植民地記念碑を見学。
- (5) レジストロ市。国道工事犠牲者合同慰霊祭の見学。
- (6) セッテバラス市。墓参の見学。セッテバラス日伯文化スポーツ協会訪問。旧海外興業医院跡視察。
- (7) レジストロ市。ペイラ・リオ公園の盆踊り及び灯籠流しの見学。

また、同年度中の2014（平成26）年1月29日には、日本でサバティカル滞在中の森幸一氏が第93回常民研研究会にて「ブラジルで『ユタ』になる——二人の沖縄系霊能者の成巫過程とハイブリッドな呪的救済世界」という研究発表をおこなった。

以上、極めて簡単ではあるが、近年の常民研で始まった南米日系人に関する調査研究活動を列記した。文字通り零からの出発であったため、現状はパイロット調査をようやく終えたといったところであるが、次年度以降は、所外の専門家の協力も積極的

に仰ぎつつ、日本および東アジアで蓄積してきた民俗学的研究を南米日系人社会へと延長する本格的な共同研究へと発展させていきたい。

これまでの活動では多くの方々からのご助力を受けている。最初のブラジル視察では、サンパウロ到着直後から神奈川大学校友会の貞方賢彦、高木和博、大東員昭、板垣勝秀、高津さとる、大矢進貞、馬鳥勲、繁縄昌文、板垣勝秀の諸氏から格別のご高配をいただいた。不案内な土地にもかかわらず不安無く円滑に予定を消化することができたのは諸兄のご好意があったからに他ならない。沖縄関連の視察には、県人会の松堂忠顕氏から案内をいただいた。第2回視察で広大なレジストロ植民地を巡行し紹介してくださったのは、日伯文化協会の金子国栄、清水ルーベン、福澤一興の諸氏である。福澤氏には更に、3回目の渡伯時にレジストロ周辺の他の植民地まで連れて行っていただいた。ご自身が収集していた貴重な史資料もいただいている。資料については、かつて海外興業でご活躍された技術者を御尊父をもつ京田三恵氏からもご提供いただいた。ここに記してこれまでに賜ったご厚情に感謝の意を表す。